# 福井県　保幼小接続事業の流れ

| ２６年度１～３月・２７年度４・５月 | ２７年度６～１２月 | ２７年度１月～３月 | 28 年度 |
|---|---|---|---|
| 小学校１年生 | | | ２年生 |
| ５歳児 | | | 小学校１年生 |
| 小がｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ役となり、保幼小を接続するｶﾘｷｭﾗﾑづくりに着手 | 各園・校がカリキュラムや年間計画をもとに、実践・交流 | 今年度の保幼小接続の実践について検証 | |

※同じ子どもの２年間の育ちのみとり

**一番大事なのは、保幼小が連絡を取り合える関係づくりができること**

## 集まる

○平成 27 年度に向けて、校区内の保育所・幼稚園・認定こども園と小学校の集まりの前段階を設けた方がよい校区は、平成 26 年１月～3 月期に集まって、27 年度の集まりがスムーズにできるようにしておく。

○H27 年度 4 月～5 月頃に、各小学校の推進担当者（教頭等）が中心になって、校区内の園に声かけをして保幼小接続推進会議を開き、集まる。（管理職、５歳児担任・小１担任など）

## 知り合う

○お互いの保育・教育や園や学校の１日の子どもの生活の様子、１年間の流れなどについて説明し合う。
（資料：各園・校の年間計画、５歳児の保育計画、1 年生の全体指導計画など）

○現状での保育所・幼稚園・認定こども園、小学校でのそれぞれの悩みなどについて知り合う。

○保幼小接続カリキュラム～学びに向かう力～をもとに、幼児期と児童期の連続性について、園や学校での具体的な場面とかかわらせながら話し合って共有する。

## 計画する

○園と校で一つの育ってほしい子どもの姿（目標）を協議して決める。それを、【連携推進】の育ってほしいこどもの姿の欄に書き入れる。

○【連携推進】に、園での５歳児の活動や小学１年生の生活科を中心とした学習活動について書き入れて、お互いの活動を知り合い、園と小学校の保幼小の接続に効果的と考えられる子どもの交流活動を計画する。

○互いの教育内容や子どもの様子を知るためにできる教職員の交流・研修の場（保幼小接続推進会議や、授業参観、一日保育体験など）を計画する。

## 日々の保育・教育による実践

**園での日々の保育・教育**

**小学校での日々の授業・学校生活**

振り返り

育ってほしい子どもの姿を目指して、実践し、子どもの実際の姿を見取り、検証・改善に生かす。

園では、楽しみ、試し、工夫し、見通しを持つなど、子どもが意欲を持って遊びや生活を進め、いろいろな気づきを得ていくことを大切にする。このことが、小学校以降の意欲や集中力、持続力、道徳性などにつながっていく。また、園の生活や遊びの中で、５歳児が遊びで経験する内容「言葉」・「数」・「自然」・「約束」は小学校の教育につながる内容である。

このように「保幼小接続カリキュラム」をもとに、園と小学校は、子どもの育ちや学びのつながりを見通し、より充実した５歳児・小学校１年生の保育・教育を行い、“学びに向かう力”を育てていく。

## 交流活動による実践

### 子どもの交流の例

①　５歳児と１年生が一緒に活動する。
（なかよし活動、栽培、お祭り、公園で自然見つけ、学校紹介など）

②　５歳児が１年生の活動を見る・応援する。（体育大会、音読、歌など）

③　１年生が５歳児の活動を見る・応援する。（歌、踊り、劇など）

### 保育者・教師の交流・研修の例

①　体験研修
　ア　小が一日保育体験
　イ　保幼が一日小学校体験
　ウ　保幼が一日幼保体験

②　行事や、公開保育や公開授業の参観

③　幼児教育支援センター講座
　・幼児教育を学ぶ講座
　・小学１年生の教育を学ぶ講座
　（国、生活、算数、道徳他）
　幼児教育支援センターは出前講座もします。

④　園・学校だよりなどを交換して読む

## 検証する

○カリキュラムや年間計画の見直し
○効果的な援助とは

評価の観点
○カリキュラムの課題は何か。
○幼児期、児童期を効果的に接続できたか。
○教職員の連携はとれていたか。
○育ってほしい子どもの姿の達成のための工夫にはどんなものがあったか。
○互いの保育・教育を理解・見通すことができたか。

小学校の教育を理解すると、幼児教育だからこそ育てられる点と小学校へのつながりが見えてくる。

幼児期の教育（子どもの育ち）を理解すると、小学校で工夫できる点が見えてくる。

保幼小接続の取組みで１番大切にしたいことは、「保幼小が連絡をとれる関係づくり」。それは、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校が、互いに連絡を取り合い、子どもの育ちをつなげようと意識して日々の保育・教育に取り組んでいくようになるということである。

年度始めに作成したカリキュラムは、年度末に検証・見直しをして、次年度に備えるようにする。

前年度の成果や課題を反映させて、新年度の取り組みをする。